

# インフルエンザワクチンについて

以下をお読みになった上でワクチン接種を受けてください。

## □ 今年のインフルエンザワクチンについて

4種類が混合されています

- ① A 香港型 (H3N2)
- ② A ソ連型 (H1N1)
- ③ B 型ビクトリア系統
- ④ B 型山形系統

以前は3種類のインフルエンザが混合されていましたが、2015年より4種類のインフルエンザが混合されるようになりました。



## □ ワクチンの効果

成人の場合

発病を50%減らし死亡を80%減らす効果があります。高齢者や持病を有する患者さんは毎年のワクチン接種が望まれます。

小児の場合

報告によって多少幅がありますが、おおむね20~60%の発病防止効果があります。また、重症化予防に関する有効性を示唆する報告も散見されています。

## □ 注射の回数、接種間隔

下の表をご覧ください。12才以下はインフルエンザに対し一般に免疫が少ないため2回接種をすることになっています。2回の接種間隔は4週間以上あける方が効果は大きいです。しかし、既に流行している時などやむを得ない場合は短くしてもよいことになっています。

13才以上では一般に1回の接種と2回の接種ではその効果に大差がないとされています。ただし受験生であるなどの個人の希望、事情があれば2回接種についてご相談させていただきますので、1回目の時に申し出てください。

接種年齢	接種回数	1回目と2回目の間隔
6ヶ月~12才	2回	(2~)4週間以上
13才以上	1回 (希望者のみ2回)	(1~4週間以上)

## □ 副反応について

副反応は、ない場合が多いのですが、あったとしても軽微なものがほとんどです。約10%の方に接種部位の痛み、腫れ、熱感があります。また発熱、倦怠感を感じる方もあります。一方、重篤な副反応は非常に稀です(致命的な問題、後遺症を残す場合は100万人に1人以下)。

100%副反応なしとは言えませんが、特別な体質の方を除いて一般的に大きな副反応は、ほとんど気にしないで良いでしょう(ただし、念のため接種後は裏面の注意点を守ってください)。

**接種後は以下の点に注意してください。**

1. めったにないことですが、重篤なアレルギー反応（息苦しさ、じんましん、血圧低下、意識障害など）が起こることがありますので接種後30分間は待合室で待機ください。ちょっとでも何か症状があった場合は、我慢しないで申し出てください。副反応は接種後の発生時間が早いほど重篤になる危険性があります。早期発見、早期治療が命を救います。
2. 副反応（発熱、頭痛、けいれんなど）の多くは24時間以内に出現することが知られています。接種後1日は体調に注意しましょう。
3. 接種後に接種部位が赤く腫れたり痛む場合がありますが、通常4～5日以内に軽快します。なお体調に変化があれば速やかに医師の診察を受けてください。
4. 接種後の入浴は問題ありませんが、注射部位をこすることはやめましょう。
5. 接種当日はいつもの生活をしてください。ただし、激しい運動や大量の飲酒は避けてください。

**次の方は接種を受けないでください。**

- 風邪をひいている方（コロナに感染している可能性があるためです）
- 明らかに発熱している方（通常は37.5℃をこえる場合）
- 重い急性疾患にかかっている方
- ワクチンの成分により、アナフィラキシー（通常、接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身のひどいじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）を起こしたことがある方
- いつも診てもらっている医師にワクチンは受けない方がいいといわれた方



**重大な副反応を予防するために、予診票は正確にご記入ください。**

特に、以下の方は記入漏れがないようお願いいたします。

- 予防接種を受けた2日以内に発熱、発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う症状がみられた方
- 薬や注射、点滴または食事（鶏卵、鶏肉など）で発疹が出たり異常をきたしたことがある方

**18才未満の方が接種する場合、保護者の同伴をお願いしております。**

**予防接種健康被害救済制度**

インフルエンザワクチン接種によって重篤な副反応が発生した場合は、医療費及び医療手当等、予防接種法の定期予防接種に準じた一定の給付を行う国の制度があります。